

# えんちょうだより

赤城育心こども園  
園長 深町 穂

新型コロナウイルスの影響で、今年は、いろいろなことがありました。

お泊り保育も“残念ながら”宿泊なしで行いました。運動会も、“残念ながら”クラス単位で行いました。そして、クリスマス会も…。

赤城育心こども園として、コロナの影響を受けるようになったこの数か月を振り返って評価をしてみれば、見直すべき点はあるものの、その時その時で、この見えない新型コロナウイルスに向き合い、全力で対応してきました。その過程では、たくさんのことを悩みました。行事計画の変更や中止を決める際にも、議論を重ねました。Aという判断をすれば、喜んでくれる保護者もいます。でも、違う観点でBという判断の方を歓迎する保護者もいます。人それぞれに感性が異なりますし、従事している職種によっても、コロナウイルスに対する感覚に大きな違いがあることを感じています。そういうわけで、すべての保護者の方に、満足していただける結論を出すことはできなかったと考えています。

そんな中、私たちが、判断の軸としたのは、園全体で総合的に日々の取り組みなどを考慮したうえで、何が子どもたちの最善の利益につながるかということでした。そして、考え方によっては“残念ながら”と、否定的な気持ちになってしまいそうなところを、どうしたら、プラスの考え方をもてるかという視点を加えて判断してきました。私たち職員が、この状況を「物足りない」「さびしい」「今年子どもたちはかわいそう」と思って保育に取り組んでいては、子どもたちにとって、決してプラスにはならないとも考えました。

保護者の皆さんの評価もいろいろあるとは思いますが、結果的に、思い出に残る「ワクワク会」（お泊り保育の代替行事）や、クラス単位でいつも以上に子どもたちが集中して取り組み、保護者の皆さんにもしっかり見ていただける運動会を開催できたのではないかと考えています。最初に書いた“残念ながら”ではなく、“こんな状況だからこそ”“逆境に負けず”“前向きに”“いつも以上に力を合わせて”、これまでのところ様々な行事ができたと思っています。クリスマス会についても、今年は、保護者の皆さんには集まることをご遠慮いただくという選択をしました。この判断もまた、お子さんと前向きにとらえていただければ幸いです。みんなで集まることはできませんが、ぜひ、今年しかない素敵なクリスマスシーズンをお過ごしいただきたいと思います。

この数日、新型コロナウイルス感染症の拡大が、また報道されるようになってきました。このコロナ禍で、日々の暮らしを守ることが精一杯の人が、前向きに生きるのは本当に大変なことだと思います。それを重々承知で、お叱りを受けるのを覚悟で言わせてもらえば、それでも、その中にわずかな光を見出して生きることが今の私たちには求められているのだと思います。そして、子どもたちがそんな大人の姿を見て育つのであれば、きっと、将来彼らは、どんな苦難の中でも前向きに生きる力をもった人間になるのではないのでしょうか。

長引く新型コロナウイルスに、私もうんざりしていますが、だからといって今の状況に翻弄されることなく、この素晴らしい世界に生きていることに感謝し、明るい未来を信じて生きたいと思っています。こんな時だからこそ、互いにかみ合ったり、自分の考えを押し通したりするだけでなく、他者の声にも耳を傾けながら、穏やかな気持ちで過ごしたいと考えています。いつもとは違うクリスマスがやってきますが、皆さんにとって、いつも以上に特別なものになることをお祈りしています。メリークリスマス！